



医療現場における KYTの取り組み

■KYTとは

危険予知訓練

K ……危険(キケン、Kiken)

Y ……予知(ヨチ、Yochi)

T ……トレーニング(トレーニング、Training)

危険をあらかじめ予測し、察知できる能力を高める訓練

■ヒューマンエラー

…人間の行動特性に起因するエラー

人間の不安全な行動や不安全な状況と関連づけて要因を考え、対策を講じる

偶発的に起きるのではなく、人が仕事をする上での

情報 作業のやり方 周囲の環境要因

によって誘発される

エラー要因に“気づく”能力

- ①ある状態や作業の特徴と危険(リスク)に関する確かな知識
- ②作業の流れや起こりうる変化についての理解力または洞察力
- ③豊かな想像力

◆KYTの目的◆

“気づき”の能力を身につけ、安全性の高い行動へ応用していく

■KYTの進め方

現場の状況や作業を描いたKYTシートを使った訓練を実施

現場の中にひそむ“危険要因”とそれが引き起こす“現象(事故の形態)”について

↳ 5人程度の小グループをつくり、リーダーを決めて話し合いながら進める

「4ラウンド法」による手法

医療現場の場合、グループの特徴や職種、立場によって危険を予知する内容は異なる。

また、分野ごとに病院内のいろいろな場面が想定される。

それぞれにとって有用な場面・状況を設定して訓練を実施することが大切。